

# 平成17年度の先端技術を活用した農林水産研究高度化事業の概要

農林水産省では、現場に密着した農林水産分野の試験研究の迅速な推進を図るため、平成14年度から提案公募型の「先端技術を活用した農林水産研究高度化事業」を実施しています。本事業は産学官の共同研究グループから研究課題を公募し、外部専門家等による審査を経て、採択課題を決定します。

平成17年度は、食の安全・安心に係る試験研究の重要性が高まっていることに対応するため「全国領域設定型研究」に「リスク管理型研究」を創設し、また限りある研究開発資源を効果的・効率的に活用するため、他府省の基礎・基盤的研究で生まれた技術シーズや他分野の研究成果を農林水産分野に積極的に応用する研究を推進する「府省連携型研究」を創設しました。

平成17年度は、全体で447課題の応募があり、84課題を採択し、委託事業により研究を実施します。

## 1 研究領域設定型研究

### 全国領域設定型研究

農林水産省が提示する農林水産施策推進上必要な全国ベースでの研究領域に対応した研究

#### ア) 一般型：リスク管理型以外

17年度採択課題数： 3

< 課題例 > ため池等の低コスト改修・高度防災情報による防災対策技術の開発

参加機関：(独)農業工学研究所外4機関

研究概要：今後の豪雨、地震災害に対応するため、被災実態調査を行い、ため池・農地の被災可能性を評価することにより、耐震性・耐豪雨性を向上させる改修技術の開発等を行う。

#### イ) リスク管理型

17年度採択課題数： 18

食の安全に係るリスク管理等の施策推進上必要な研究領域であって、行政と密接に連携して行う必要があるもの

< 課題例 > マイコトキシンのポストハーベスト汚染リスクとその低減化

参加機関：信州大学外3機関

研究概要：農作物の収穫後の汚染が懸念されるかび毒のうち、リンゴのパツリン、コメのオクラトキシンA及びステリグマトシスチンを対象として、産生菌の分布、生態、農作物への加害実態等を把握し、汚染の低減・防止方法を多角的に検討するとともに、合理的なリスク管理方法の選択に資するための調査研究を行う。

### 地方領域設定型研究

17年度採択課題数： 11

地方農政局等が提示する農林水産施策推進上必要な地方ベースでの研究領域に対応した研究

< 課題例 > 有明海沿岸農業地帯のクリークを活用した汚濁負荷削減技術の開発

参加機関：(独)農業工学研究所外4機関

研究概要：有明海における農地からの面源負荷削減に資するため、農業排水が排出されるクリークの直接浄化及びポンプアップした間接浄化技術の開発等を行い、さらに面源負荷およびクリーク水質の状況を分析し、浄化方法を導入したときの効果を評価する。

## 2 地域活性化型研究

独創的現場シーズ活用型研究

17年度採択課題数： 1

農林漁業者の有する農林水産現場の独創的な技術シーズを活用し、農林漁業者が参画する研究

< 課題例 > 里山を活用したきのこの栽培及び増殖システムの開発

参加機関：長野県林業総合センター外 4 機関

研究概要：林内で除間伐木を有効利用して原木栽培と菌床栽培を組み合わせた新たなきのこ栽培を実践し、里山の活用を図る生産者が現れている。この取り組みの実用性を高めて技術を体系化するため、林内接種技術の簡易化、除間伐木を有効活用した栽培及び林内自然増殖技術の開発、遊休農地を活用した栽培技術の開発を図る。

地域競争型研究

17年度採択課題数： 11

地域固有の特産作物等地域資源又は地域の技術シーズを活用し、地域産業を活性化させる研究

< 課題例 > 酒粕を活用した新規乳酸発酵食品の開発

参加機関：新潟県醸造試験場外 4 機関

研究概要：新潟県醸造試験場において既に成功している酒粕の乳酸発酵技術を利用し、他の乳酸菌発酵食品にはない風味、栄養素と機能性を付加した新潟県独自の新規食品を開発する。

広域ニーズ・シーズ対応型研究

17年度採択課題数： 36

複数の地域が抱える共通問題を効率的かつ効果的に解決するための研究

< 課題例 > DNAマーカーを利用したヒラメのエドワジエラ症耐性品種の開発

参加機関：神奈川県水産技術センター外 3 機関

研究概要：ヒラメ養殖に甚大な被害を与えているエドワジエラ症は有効な対策は皆無で、その経営に大きな支障が生じているため、同症に対する耐病性魚を効率的かつ短期間に選抜育種するため、耐病性選抜マーカーを開発しそれを利用することにより、ヒラメのエドワジエラ症に対する耐病性品種を作出する。

## 3 府省連携型研究

17年度採択課題数： 4

他府省の基礎・基盤的研究で生まれた技術シーズや他分野の研究成果を農林水産分野に積極的に応用する研究

< 課題例 > 重イオンビーム照射による組換え花卉高品位化技術の開発

参加機関：(独)理化学研究所中央研究所外 3 機関

研究概要：組換え品種作出のコストリスクを低減し、我国の花き産業に高い国際競争力を与えるため、遺伝子組換えと(独)理化学研究所で実施できる重イオンビーム照射を組み合わせることにより、花きの組換え品種に多様な高品位化を施して費用対効果を飛躍的に高める技術の開発を行う。